

# 下関

# 注目を集めた“ふく”観光が充実 注目の新スポットも



ふく処・ふく楽舎 ふく料理体験学習(ふくふくゼミナール)

山口県下関市では2018年は幕末や明治維新150年、ふく食解禁130年の取り組みが注目を集めた。関門海峡を山口県下関市と福岡県北九州市を歩いて渡れる関門トンネルの人道も開通60年の記念の年となっている。さらに下関と長門を結ぶ「R西日本の観光列車」の運行開始、豪華宴会列車として注目を集めた「TWILIGHT EXPRESS 瑞風の5コースのうち4コースは下関発着となっている。

ふく食解禁130年というところで全国的に注目を集めた下関市。子供向けに人気を集めた鈴木福くんを起用したPR動画は公式サイトで4万再生を越えてテレビのバラエティ番組でも注目を集めた。

## ふく食解禁130年で注目

本場で下関のふく体験解禁の時期にニュースで登場する南風泊市場の袋籠り。その南風泊市場の調理体験や職人のふくを捌く技が見学できる施設「ふく処・ふく楽舎」がある。食事や買い物も楽しめる。トラフグ8千尾を備蓄する生簀を設置。トラフグ磨きを教材とする「ふく料理体験学習」と、高品質の「とらふく料理」が食べられる。下関市の南風泊市場で買った天然トラフグのセットを宮家に献上される。その調理を担当するのが内田祐介さん。内田さんの貴重な技術を間近で見学できるほか、指導もしてもらえる。体験コースは天白コースの場合1人7千円(税込)。予約制(3日前まで)。



高級品の「とらふく料理」



宮家に献上される料理を担当する内田祐介さん

童王戦開催で注目 第31期童王戦七番勝負(読売新聞社主催)の第7局が2018年12月20、21日、春帆楼(山口県下関市)で行われた。増ノ浦の戦いや巖流島の決闘で知られる下関の最終局開催という童王戦といことも非常に盛り上がりつつある。今回の童王戦は広瀬章人八段が羽生善治竜王に挑戦。前回の童王戦では羽生竜王がタイトルを獲得し、通算7期で永世竜王を獲得。他の永世竜王と合わせて永世七冠を達成していた。勝負は広瀬章人八段が勝利新竜王となった。



職人技を間近で見る



リフレッシュ工事が終わった関門橋

## 平成最後の竜王戦 最終局開催

対局前日の19日には羽生善治竜王と広瀬章人八段は、会場近くの巖流島



巖流島に上陸した羽生竜王(当時)と新竜王となった広瀬八段

に上陸。島内を観光。前夜祭とあわせて開催を喜んだ。前夜祭と対局会場の春帆楼は関門海峡を臨む。また、羽生九段が七冠を達成したのも下関市の旧マリニピアくろいでの。3月30日には広瀬新竜王も開催が決まったこととを非常に喜んでいる。生九段と広瀬新竜王の手形と記念碑が巖流島に設置される。また、羽生九段が七冠を達成したのも下関市の旧マリニピアくろいでの。3月30日には広瀬新竜王も開催が決まったこととを非常に喜んでいる。生九段と広瀬新竜王の手形と記念碑が巖流島に設置される。



関門トンネル人道

### 関門トンネルの人道 開通60年



一の俣桜公園

リフレッシュ工事が完了した関門橋。下関を代表する景観のダイナミックな姿は、まさに関門のシンボル。関門トンネル人道は、元々の住民が整備に協力した。インスタ映えスポットとして人気も上昇中。地元の観光客の訪問も多い。1973年11月14日に供用開始となり、全長が1068mで、海面から10ノット(時速18km)を要する時間は約15分。近年は外国人観光客の訪問も多い。関門橋は、1973年11月14日に供用開始となり、全長が1068mで、海面から10ノット(時速18km)を要する時間は約15分。近年は外国人観光客の訪問も多い。関門橋は、1973年11月14日に供用開始となり、全長が1068mで、海面から10ノット(時速18km)を要する時間は約15分。近年は外国人観光客の訪問も多い。



春帆楼での前夜祭

しものせき観光キャンペーン実行委員会(下関市観光政策課)  
山口県下関市中町5-6 TEL: 083-231-1350  
http://shimonoseki.travel  
※旅行関連業者対象コンテンツを公開中